

朝会等で「日本一素晴らしいあいさつができる学校にしましょう。」と何度も繰り返し呼びかけています。是非ご家庭でもあいさつの意義等について話していただき、素晴らしいあいさつができるようご指導ください。

モラルエッセイコンテスト出品作品の中で、あいさつについて書いた作文の内容が素晴らしかったので、掲載したいと思います。

「笑顔のバトン」 1年2組 吉田 駿

「常識だから」僕はあいさつをする。「おはよう。」「いただきます。」「ごちそうさま。」「いってきます。」「いってらっしゃい。」「こんにちは。」「ただいま。」「おかえり。」「おやすみ。」

あたりまえなのに、あいさつができない人もいます。感謝の言葉もそうだ。「ありがとう。」「ごめんなさい。」あたりまえなのに、素直に言えないのか、はずかしいのか。僕の常識の中では「ありがとう。」も「ごめんなさい。」もあいさつの一部です。言えない方がはずかしいです。

僕は、毎日夜ご飯を作ってくれた母に、感謝の気持ちを伝えます。「ごちそうさま、おいしかったよ。」すると母は、「ありがとう。」と感謝の言葉で返してきます。なぜ母が「ありがとう。」と言うのか聞いてみた。「うれしいから。」と母は言いました。

感謝の気持ちを素直に言葉にして相手に伝えることで、相手も喜び、感謝の言葉を返したくなるのです。

あいさつも、すると気持ちいいし、されるとうれしい。する人がいるから、返す人ができる。

「常識だから。」僕はあいさつをする。僕から始まる「笑顔のバトン」をみんなに届けたい。

私も毎朝校門に立ち、生徒や地域の方や卒業生にあいさつをしています。元気なあいさつを返してくれると、とても嬉しいです。4月の頃は元気なあいさつを返してくれる生徒はとても少なかったですが、だんだんと増えてきました。でも、声が小さかったりして、あいさつしているのかどうか分からない生徒もいます。

「日本一あいさつが素晴らしい学校」になるよう、頑張りたいです。

～白樺No.3に掲載した内容（生徒アンケートより）～

「あいさつってなぜ大切なの？」

『人とのコミュニケーションに必要（大事）だから。』

『人と人との交流、かかわりを深めることができるから』

『お互いに（周囲が）気持ち良くなる、元気になる、うれしくなるから。』

『将来の自分のため（社会に出たとき）に役立つ、必要だから』

『一日を気持ちよく、充実して生活するため』

『相手に良い印象を与えるため』

『お互いのことを尊重できる。』『相手に対する思いやり』『感謝の気持ち』